主体的，創造的，協同的に取り組む態度を育成するICT活用

－ICTを活用してアクティブ・ラーニングを充実させる取り組み－

原島　良子（大阪市立堀江小学校）・本山　寛之（大阪市立堀江小学校）

概要：本研究の目的は，総合的な学習の時間において，問題の解決や探究活動に主体的，創造的，協同的に取り組む態度を養うために，ICT特にタブレットPCを学び合いのツールとして，効果的な活用のあり方を明らかにすることにある。第6学年の「堀江の良さを伝えよう」において，児童はタブレットPCを持ち帰り，実際に町を歩いて調査しことをタブレットPCでまとめ，堀江の良さを伝える歌を作成する活動を行った。その結果，児童は意欲的に活動し，分かりやすく伝わるようにプレゼンテーションを行うことで，その後の話し合いが深まるなど，問題の解決や探究活動に主体的，創造的，協同的に取組む態度を養うことができた。

キーワード： 主体的，創造的，協同的　タブレットPC　堀江の良さ　アクティブ・ラーニング

1　問題の所在

近年，社会は急激な変化を遂げている。誰もがスマートフォンを持ち，大量の情報が瞬時に手元に届く時代になってきた。しかも正しいと思っていた知識や情報が短時間のうちに陳腐化してしまうことも当たり前になってきた。これらの社会に対応するために，児童に自ら判断し，考える力を育成することが学校現場に求められている。1998年に新設された総合的な学習の時間はそれらの能力を養うものである。昨今，アクティブ・ラーニングが言われているが，問題の解決や探究活動に主体的，創造的，協同的に学ぶことがそういった力を育成することにつながっていく。

しかし，主体的，創造的，協同的に学ぶということに関して今年度担任している6年生（123名）の4月当初からは，次のような課題が見られた。

・児童会活動や授業中に，前に出て発表する際，意欲的に参加しようとしない児童が約5割いる。

・授業中，グループや全体で交流する際に，一部の児童（約2割）のみが発言している場面が多く見られる。

・同じく交流の際に，たくさんの意見を出し合い，それらをグループでまとめることができない。

以上のような実態から，指導内容の見直しや教材の工夫，指導方法の改善に取り組み，児童に，主体的，創造的，協同的に取り組む態度を養おうと考えた。

2　研究の仮説

児童の自ら判断し，考える力を育成するには，総合的な学習の時間において，学習活動が「①課題の設定」→「②情報の収集」→「③整理・分析」→「④まとめ・表現」といったプロセスが繰り返し発展的に行われることが言われている。これらの学習活動は児童にとって具体的で自分が関与しているもので，いわば自分事として探究的・協同的に行われることが重要である。つまり，探究の進め方についても，協同の方法についても「自分事」として問い，考え，判断し，そして責任をもって自己決定したことを実行することにより，児童の自ら判断し，考える力を育成することにつながると考える。

ところで，昨今授業でのICT活用が盛んに言われている。タブレットPCは持ち運びができ，写真や動画を撮ることができる。加えて，それらをグループや全体で共有することができる。またインターネットを用いて，気になったことをすぐに検索できるという良さもある。それから，プレゼンテーションソフトを用いて，視覚的に相手に伝えることもできる。そういったICTの利便性を用いれば，問題の解決や探究活動に主体的，創造的，協同的に取り組む態度を育成できるのではないかと考え，次のような仮説を立てた。

児童に問題の解決や探究活動に主体的，創造的，協同的に取り組む態度を育成するには，ICTを活用して，授業を工夫することが有効である

このような実践研究は先行研究や事例としても，まだまだ少ない。そこで第6学年の総合的な学習の時間において，ICTの効果的な活用に焦点を当てて，実践研究に取り組むことにした。

３　研究の方法

（１）ＩＣＴの活用についての基本的な考え方

○　問題の解決や探究活動に主体的，創造的，協同的に取組む態度を育成するためのツールとして ICT 活用を考える。つまり，ICT 活用は手段であって，目的ではない。

○　上記のような ICT の特長をふまえた授業展開・場を考える。

（２）検証方法

検証授業を実施し，授業における児童の言動（ＶＴＲなど），ワークシート，感想，単元終了後のアンケートなどから，ICT の活用の効果について検討する。

４　授業の概要

本実践は，2016 年 4 月～7 月に大阪市立堀江小学校第 6 学年 4 クラス（123 名）を対象に，単元「堀江の良さを伝えよう」で行った。実践は全15時間である。

授業では，まず卒業に向けて学級で話し合い，「地域に支えられて 6 年間を過ごしてきた」という意見が児童から出された。それを踏まえ，「地域の人たちに，感謝の気持ちを伝えたい。どのような方法で伝えたらよいか」について話し合った。たくさん出された意見の中から，校歌のメロディーにのせて，堀江の良さが分かる歌を作ることとなったどのような歌詞にするかについて話し合い，「堀江の歴史」や「小学校の歴史」，「地域の人々」，「堀江にある神社」などが出され，自分が担当したいものを決め，それについて調べる活動を行った。調べる際には，タブレット PC を持ち帰り，実際に堀江の町を歩いて，地域の歴史や特徴が分かる場所の写真や動画を撮った。それぞれが撮ってきた写真や動画をグループで共有し，それについてみんなに紹介するプレゼンテーションを MicrosoftPowerPoint で作成した。そのプレゼンテーションをもとに歌詞作りを行い，それらを学級で発表した。プレゼンテーションは IWB に映し，全体で共有できるようにした。その内容が歌詞に現れているのかについて全体で吟味し，さらに「堀江の良さが分かるようになるには，どんな歌詞にすればよいか」について話し合い，その話し合いを受けて歌詞を作り直す活動を行った。

５　結果と考察

（１）　授業記録から

・プレゼンテーション後の話し合い活動では，普段なかなか発表しない児童が，手を挙げて積極的に発言する場面が見られた。IWB を用い，プレゼンテーションを全体で共有できたことが大きいと考えられる。

・普段積極的に活動を行うことのできない児童が，グループ内で友だちが調べたことに対して意見を言ったり，さらに自分も詳しく調べようと行動したりしていた。タブレット PC で撮ってきた写真を見ることで，イメージが膨らみ，自分も意欲的に活動しようとしたためだと考えられる。

（２）　児童の感想から

・「パワーポイントで，言葉だけでは分かりにくいことも，写真や図を使って説明してもらうと，分かりやすくなった。」という記述から，相手により分かりやすく伝えるのに，ICT が効果的であることが分かった。

・「いいプレゼンにするために，どの資料が一番伝わりやすいかなどを話し合うことができた。」と ICT を用いて協同的な学びができている記述が見られた。

・「タブレット PC を持ち帰り，写真を撮ったり，自分たちの町のことを調べたりしたので，町のことを今までよりもっと知ることができたと思う。」という記述から，タブレット PC を持ち帰ることで，児童は自分事として課題解決に取り組んでいることが分かった。

・「堀江以外の場所についても特徴やよいところを知りたい。」などと新たな課題について取り組もうとする意欲が感じられる記述も見られた。

（３）　単元終了後の調査結果から

・「自分で課題を立てて情報を集め整理して，調べたことを発表するなどの学習活動に取り組むことができた。」では，約 9 割の児童が肯定的な回答を示した。

・「授業で，学級の友達との間で話し合う活動では，話し合う内容を理解して，相手の考えを最後まで聞き，自分の考えをしっかり伝えていたと思う。」では，約 9 割の児童が肯定的な回答を示した。

６　まとめ

以上から，児童に問題の解決や探究活動に主体的，創造的，協同的に取り組む態度を育成するには，ICT を活用することに一定の効果があることが分かった。

今後も児童の思考の流れ等を考え，児童が主体的に取り組むことができる授業を構成していきたい。

参考文献

藤井千春（2016）アクティブ・ラーニング　授業実践の原理　明治図書

田村学（2015）生活・総合アクティブ・ラーニング　東洋館出版社